

# ぐんま緑の県民基金事業

～ みんなの森をみんなで守ろう ～

平成26年度

実 施 報 告 書



平成27年12月  
群馬県

# も く じ

はじめに	…1
目指すべき目標	…1
平成26年度ぐんま緑の県民基金事業の総括	…2
平成26年度ぐんま緑の県民基金事業の実施概要	…3
水源地域等の森林整備	…4
森林ボランティア活動・森林環境教育の推進	…9
市町村提案型事業	…11
制度運営	…14
ぐんま緑の県民税評価検証委員名簿	…17
資料集(別冊)	

## はじめに

群馬県は、県土の3分の2を森林が占めています。

豊かな水を育み、また災害を防止するなど、私たちの暮らしを支え、多くの恵みをもたらす森林は、県民共有の財産です。

県では、この大切な森林を守り、育て、次世代に引き継いでいくため、県民税均等割の超過課税として「ぐんま緑の県民税」を平成26年4月から導入し、様々な施策に取り組んでいます。

## 目指すべき目標

木材価格の低迷や山村地域の過疎化・高齢化などにより放置され、荒廃が進む森林の整備を進めるため、また、森林を取り巻く新たな課題に対応するため、次の目標に向けて施策を進めます。

- 豊かな水を育み、災害に強い森林づくり
- 里山・平地林等の森林環境を改善し、安心・安全な生活環境を創造

## 期間

事業期間 5年間(平成26年度から平成30年度)  
課税期間 5年間(個人平成26年度課税(平成25年所得分から))  
(法人平成26年4月1日以降に終了する事業年度分から)

## 平成26年度ぐんま緑の県民基金事業 総括

ぐんま緑の県民税評価検証委員会では、税の使途の透明性・公平性を確保するため、事業内容の検討、実績評価・効果検証を行うために設置され、これまで3回の委員会を開催し、平成26年度のぐんま緑の県民基金事業の執行状況や効果について検証・評価を行いました。

### 評価検証委員会の総括意見

森林県である群馬県に、県民参加型のぐんま緑の県民税が導入されたことは、高く評価される。

初年度は、市町村、県民への周知機会と時間が限られたことから、浸透度が低かったことは否めないが、多くの県民の皆様は、この事業を通じて、森林、里山の現状、県土保全の重要性がこれまでに増して認識いただけるようになったものと捉えられ、導入の意義は十分に評価できる。

しかしながら、準備期間が短かったこともあり、山林所有者や地元との調整が難航したことから、今後は関係各所の協力を得て、よりスムーズに事業が進められるような工夫が必要であろう。

また、整備希望地域の高齢化問題など、制度設計時には想定していなかった新たな検討事項も出てきた。

税事業を導入するにあたり設立された有識者会議<sup>1</sup>では、一定の想定のもとに事業内容が決定され、基金の使途も決定されているが、県民ニーズに対応するためには、基金使用の透明化を担保しつつ、柔軟な対応も求められる。

<sup>1</sup> 森林環境税制に関する有識者会議

平成27年12月

ぐんま緑の県民税評価検証委員会

# 平成26年度ぐんま緑の県民基金事業の実施概要

## 財源

【収入】基金(税込、寄附金、運用益) 621,755千円

(内訳) ・税込621,445千円 ・寄附金299千円 ・運用益12千円

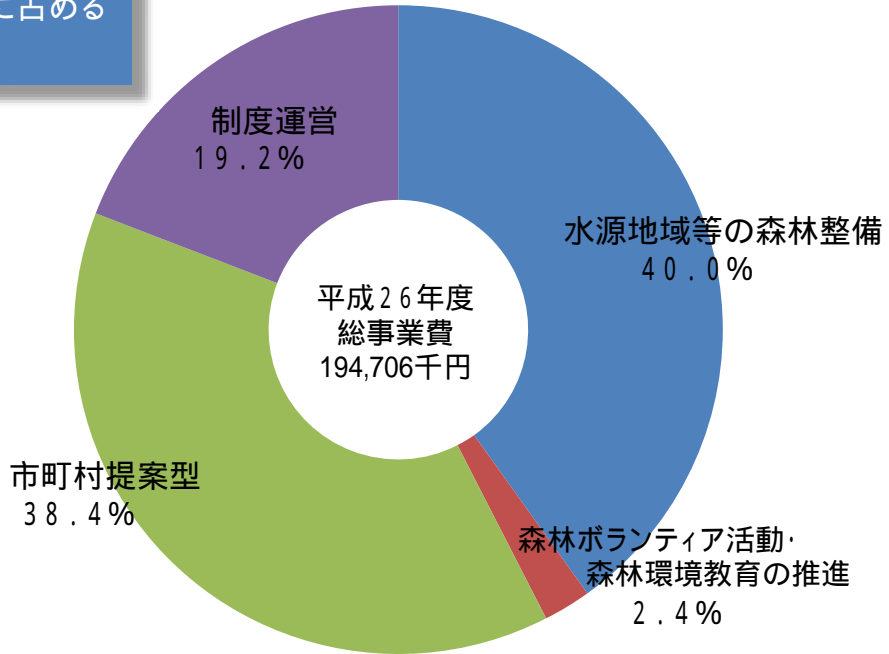
端数処理のため合計値は合致しません。

## 使い道

【支出】ぐんま緑の県民基金事業 194,706千円  
 繰越として実施する事業 310,465千円

水源地域等の森林整備	78,081千円	【林政課】
森林ボランティア活動・森林環境教育の推進	4,611千円	【緑化推進課】
市町村提案型事業	74,706千円	【林政課】
制度運営(普及啓発、評価検証、導入経費)	37,308千円	【林政課・林業試験場・税務課】

## 平成26年度総事業費に占める各事業の割合



## 1 概要

### 条件不利地森林整備

地理的、地形的な条件により林業経営が成り立たず放置されている条件不利な森林を対象として、間伐などの森林整備を実施します。

### 水源林機能増進

市町村が管理する簡易水道等の上流部の森林であって、水源涵養機能等の低下が懸念される森林を対象として、間伐などの森林整備を実施し、水源環境機能の増進を図ります。

### 松くい虫被害地の再生

松くい虫被害木が放置され、笹や竹が繁茂した森林を対象として、コナラやスギなどを植栽し、新たな森林へ再生を図ります。

## 2 事業の流れ

### 区域調査委託

事業区域の検討や森林所有者の調査を実施し、判明した森林所有者に対して、事業説明や実施に関する承諾を得ます。



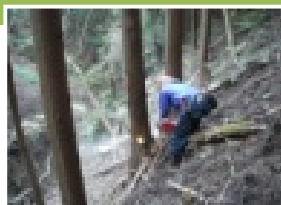
### 実施計画調査委託

森林所有者から承諾を得た森林を対象に、事業の実施区域の測量や標準地調査を実施します。



### 森林整備の実施

調査結果を基に間伐等の森林整備を実施します。



## 3 整備イメージ

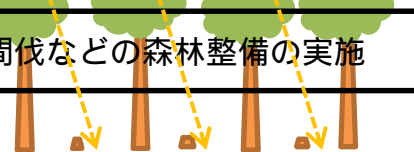
### 現状

- ・手入れがされず、公益的機能が低下した森林
- ・林内は暗く、下層植生が乏しい



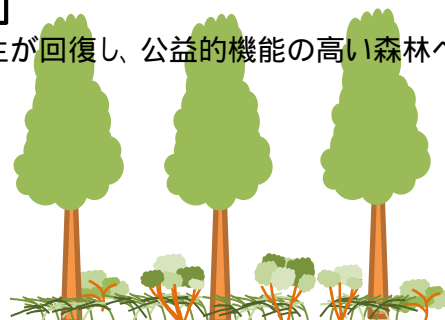
- ・間伐の実施により、林床に光りをあてて、下草などの下層植生を回復させる

### 間伐などの森林整備の実施



### 将来

- ・下層植生が回復し、公益的機能の高い森林へ移行



## 4 実施状況

【平成26年度の実績】

78,081千円

### 条件不利地

#### 森林整備

- ・区域調査  
委託：977ha  
(繰越：266ha)
- ・実施計画  
調査委託：254ha  
(繰越：188ha)
- ・森林整備  
実施面積：0ha  
(繰越：296ha)

### 水源林

#### 機能増進

- ・区域調査  
委託：410ha
- ・実施計画  
調査委託：80ha  
(繰越：51ha)
- ・森林整備  
実施面積：0ha  
(繰越：93ha)

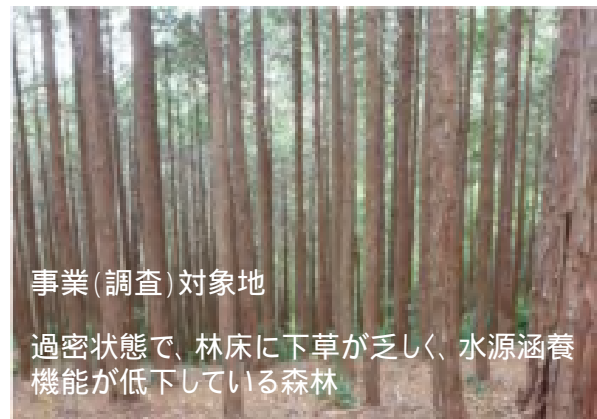
### 松くい虫

#### 被害地の再生

- ・区域調査  
委託：174ha
- ・実施計画  
調査委託：32ha  
(繰越：5ha)
- ・森林整備  
実施面積：0ha  
(繰越：12ha)

・平成26年度は上記のとおり森林整備の実施に必要な事前の調査を実施しました。(調査の詳細については、資料集 - 水源地域等の森林整備事業【年度内完了一覧】を参照)

・また、調査結果を基に約400haの間伐等の森林整備の発注し、繰越事業として実施しています。(繰越事業220,790千円)



林業経営がなされず長年放置され、公益的機能が低下している森林

- ・平成26年度繰越事業の進捗状況  
(資料集 - 水源地域等の森林整備事業【繰越事業一覧】を参照)



## 5 成果

- ・これまで、林業経営がなされず放置されていた奥山などの森林について、約1,560haの調査が実施され、森林所有者の特定や森林整備に対する意向が判明しました。
- ・また、その結果、約366ha相当の森林所有者と水源地域等の森林整備に必要となる協定が締結され、間伐等の森林整備の実施に必要な立木調査や間伐実施エリアの測量などの基礎的な情報の収集及び整備が行われました。



## 6 課題・方向性

- ・ 区域調査の実施に伴い、主に相続による林業離れや不在村森林所有者の増加により、森林所有者の特定が困難な森林が判明し、これらの調査においては多くの時間と労力が必要となり、森林整備の計画的な実施の障害となりました。
- ・ また、森林所有者の特定に至った場合においても、森林整備の承諾に必要となる、現地の状況確認や境界、間伐の実施工リアの確定について、多くの時間が必要となり森林整備の発注の遅れに繋がりました。
- ・ 今年度実施した調査については、結果の整理・分析を実施し、不承諾となった森林について新たな対応方法の検討を実施します。
- ・ 森林所有者の情報については、市町村の協力が必要不可欠であるため、各市町村の定める個人情報保護条例等に則り、適切な協力体制を確立し森林所有者の特定作業を円滑に進めるとともに、条件不利地等の森林整備の計画的な実施に努めます。
- ・ 今後、より多くの県民に対し、制度周知を実施するため、地域のニーズや規模に応じた、説明会・座談会の開催や水源地域等の森林整備事業を活用した間伐等の整備の実績について、市町村広報や各種広告媒体を活用し、幅広くPRし、森林所有者の理解を高めていきます。
- ・ 繰越を実施した森林整備については、次年度の森林整備の執行に影響を及ぼさないよう、請負事業体の執行状況を適正に管理し、早期の完成に努めます。

## 7 実施状況の評価（評価者：県）

- ・ 森林所有者の特定等が難航し、平成26年度の整備目標面積420ha(実績は0ha)の年度内完了は困難となりました。  
(平成26年度については約400haの森林整備を発注し、繰越事業として実施)
- ・ 平成27年度に向けては、繰越事業を早期に完了させるとともに、平成26年度に実施した森林所有者への調査状況を分析し、新たに事業実施箇所の確実な確保に向けた取組を推進し、計画的な森林整備の実施体制を確立します。  
(平成27年度の森林整備計画については、平成27年度の目標面積等を参照)

## 8 平成27年度の目標面積等

- 平成27年度 水源地域等の森林整備事業 目標面積等について

事業名	区分	全体 (5カ年) 計画(ha)	平成26年度			平成27年度
			計画 (ha)	実績 (ha)	繰越 (ha)	当初 (ha)
条件不利地 森林整備	区域調査	-	970	977	266	1,800
	実施計画調査	-	970	254	188	1,000
	森林整備	3,500	360	0	296	700
水源林 機能増進	区域調査	-	150	410	-	200
	実施計画調査	-	150	80	51	200
	森林整備	500	50	0	93	165
松くい虫 被害地の再生	区域調査	-	50	174	-	45
	実施計画調査	-	50	32	5	45
	森林整備	200	10	0	12	20
合計	区域調査	-	1,170	1,560	266	2,045
	実施計画調査	-	1,170	366	244	1,245
	森林整備	4,200	420	0	400	885

端数処理のため合計値は一致しません

- 平成27年度については、繰越事業分の約400haの森林整備を早期に完成させるとともに、全体計画を見据えた上で、新たに885haの森林整備面積を目標に、水源かん養機能などの公益的機能を高めるための森林づくりに取り組みます。

## 9 評価検証委員会の意見

- 林業不況に伴って人工林の荒廃が進んでいることから、この事業は重点的に取り組まれるべき事業である。
- しかし、実際に事業を開始して、山林所有者の確認や境界の明確化、承諾に予想以上の時間と労力がかかっている。
- 今後は、山林所有者への確認等について、森林組合だけでなく、市町村の担当部署にも協力を求めて、事業の推進を図ることが必要である。

## 1 概要

### 森林ボランティア活動の推進

「森林ボランティア支援センター」を設置し、専用ホームページや情報誌による情報の収集・発信や刈払機の取扱いなどの安全指導、森林整備作業器具の貸出しなど、森林ボランティア活動への一体的なサポートを実施します。

### 森林環境教育の推進

新たな「緑のインタープリター」を養成し、小中学生を対象にしたフォレストリースクールや緑の少年団育成事業、県民を対象にした自然観察会、自然講座等への派遣などを通じて森林環境教育を推進します。

## 2 実施状況

【平成26年度の実績】

4,611千円

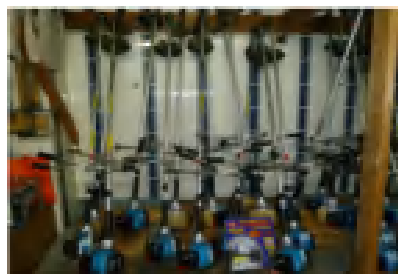
### 森林ボランティア活動の推進

- ・ 森林ボランティア支援センターの設置
- ・ 専用ホームページ「モリノワ」の運用開始：<http://www.morinowa.pref.gunma.jp/>
- ・ 森林整備作業器具の貸出し：47回
- ・ 安全講習会の開催：開催回数：11回  
参加人数：226名
- ・ 情報誌の発行：1回

### 森林環境教育の推進

- ・ 指導者養成カリキュラムの作成
- ・ 指導経験者を対象に緑のインタープリター養成講座を開催（公益財団法人キープ協会に委託）
- ・ 講座回数：4回
- ・ 緑のインタープリター認定者：29名

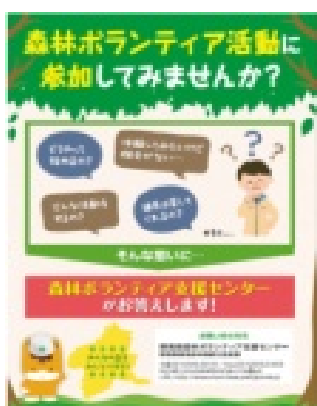
貸出し器具



安全講習会



指導者養成講座



周知リーフレット

## 3 成果

### 森林ボランティア活動の推進

- ・ 森林ボランティア支援センターを設立し、専用ホームページや情報誌による情報発信や森林ボランティア活動団体を対象にした刈払機の取扱いなどの安全講習、森林整備作業器具の貸出しなどを実施し、森林ボランティア団体の活動を支援しました。

### 森林環境教育の推進

- ・ 指導者養成講座の実施により、新たに29名の「緑のインタープリター」を養成しました。

## 4 課題・方向性

### 森林ボランティア活動の推進

- ・ 県民自らが森林や林業に関心を持ち森林保全や森林整備の必要性について理解を深めることが重要なことから、森林ボランティアに取り組む団体等の支援をさらに推進する必要があります。

### 森林環境教育の推進

- ・ 森林や自然に対する県民の関心と理解を深めるためには知識・ノウハウのある指導者が不可欠なことから引き続き、指導者の計画的な養成を図っていく必要があります。

## 5 実施状況の評価（評価者：県）

### 森林ボランティア活動の推進

- ・ 森林ボランティア支援センターを半年前倒して設立することにより、森林整備作業器具の早期貸出し等が実施でき、計画を上回る成果が得られました。

### 森林環境教育の推進

- ・ 指導者養成カリキュラムの作成から経験者向け養成講座の開催まで、概ね計画どおりの成果が得られました。

## 6 評価検証委員会の意見

- ・ これまで個別に取り組まれてきた森林ボランティア活動の拠点としての支援センターが設置されたことは大きな前進である。森林整備作業器具の貸し出しも順調に行われ、県民参加が進んだことは評価できる。

- ・ 森林環境教育を推進するために、緑のインタープリターのさらなる育成と活躍の場の設定をシステマ的に行うことが必要である。

## 1 概要

### 荒廃した里山・平地林の整備

市町村と地域住民やNPO・ボランティア団体等の協働による地域に根ざした森林整備を支援します。

### 貴重な自然環境の保護・保全

市町村あるいは市町村と地域住民が行う、県動植物レッドリストで野生絶滅種及び絶滅危惧種、類に指定されている種(約650種)が生息している地域の保護・保全活動を支援します。

### 森林環境教育・普及啓発

児童生徒や県民を対象とする森林環境教育及び森林体験活動を支援します。  
森林の機能や重要性について普及啓発する取り組みを支援します。

### 森林の公有林化

水源地域の森林や平地林の購入(公有林化)あるいは平地林の造成しようとする市町村を支援します。

### 独自提案事業

ぐんま緑の県民税の趣旨・目的に適合し、適切な事業であると認められ、評価検証委員会の承認を得た事業を支援します。

## 2 採択状況

・平成26年度は第1次募集及び第2次募集を実施し、29市町村による117事業を採択しました。

	第1次募集			第2次募集			合計			事業計画量
	市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)	
荒廃した里山・平地林の整備	15	46	51,020	17	38	101,714	22	84	152,734	森林58ha、竹林39ha 管理 8ha
貴重な自然環境の保護・保全	2	3	581	4	4	1,470	6	7	2,051	植物 3種 昆虫 2種
森林環境教育・普及啓発	8	14	5,347	3	4	845	11	18	6,192	15事業
森林の公有林化	1	1	10,000	2	2	4,777	3	3	14,777	水源林14ha、平地林 0.4ha
独自提案事業	3	3	4,433	2	2	1,360	4	5	5,793	森林 4ha、竹林 3ha
合計	19	67	71,381	25	50	110,166	29	117	181,547	

## 3 実施状況

### 【平成26年度の実績】

74,706千円

	完了			事業量	参考:繰越			(廃止)		
	市町村数	事業数	補助金額(千円)		市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)
荒廃した里山・平地林の整備	20	46	49,897	森林19ha、竹林 8ha 管理 5ha	6	17	89,675	4	21	2,107
貴重な自然環境の保護・保全	6	7	2,022	植物 3種 昆虫 2種						
森林環境教育・普及啓発	11	15	4,123	15事業				2	3	900
森林の公有林化	3	3	14,321	水源林 11ha 平地林 0.4ha						
独自提案事業	4	5	4,344	森林 5ha、竹林 3ha						
合計	28	76	74,706		6	17	89,675	6	24	3,007

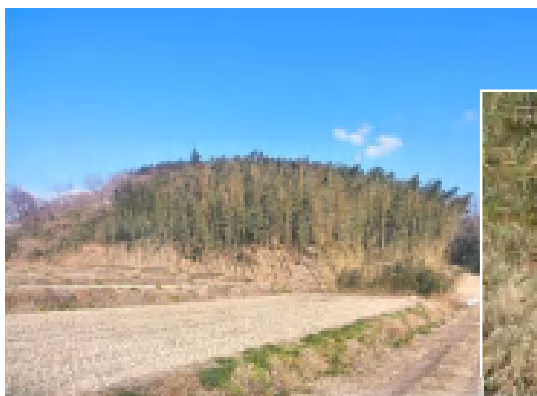
・平成26年度については、採択した事業のうち19市町村による76の事業を実施しました。

・事業の実施状況については、資料集 - 市町村提案型事業実施報告を参照。

・平成26年度 市町村提案型事業の実施状況



荒廃した里山・平地林の整備（神流町）



## 4 成果

- ・ 20市町村の46事業により約27haの荒廃した里山・平地林が整備されたことにより、野生鳥獣被害の低減、生活道路や通学路の見通しの確保、景観の保全がなされ、地域住民の安心・安全な生活環境の改善が図られました。
- ・ 地域住民にとって身近な里山を自ら又は地元市町村と協働し整備することにより、「森林をみんなで守る」意識の醸成が図られました。
- ・ 森林環境教育・普及啓発では、延べ2,000人を超える県民(児童生徒)が参加し、森林の大切さや林業の役割を学び県民の森林環境に対する意識の向上が図られました。

## 5 課題・方向性

- ・ 市町村の林業担当部局を通じて、ぐんま緑の県民基金事業の広報活動を実施しているものの、平成26年度は29の市町村の取り組みに留まった。このため、今後とも引き続き広報活動を行うとともに、市町村の教育委員会等幅広く連携し、事業の普及啓発に努めます。
- ・ 地域が荒廃した里山・平地林を継続的に維持管理していくためには、地域住民の維持管理の負担感を軽減し、継続的な管理意欲を高めることが重要であることから、地元市町村と協力しながら地域の取組をフォローする必要があります。
- ・ 事業採択されたものの年度内に事業が完了せず繰越事業が生じたため、市町村による早期の事業着手が図られるよう事務手続等のスケジュールについて配慮する必要があります。

## 6 実施状況の評価（評価者：県）

- ・ 荒廃した里山・平地林の整備については、採択された計画の一部について、整備箇所の地元調整が難航し、年度内完了が困難(繰越17事業)となり、十分な効果に繋がらない事業が生じました。
- ・ 荒廃した里山・平地林の整備以外の30事業については、採択された計画内容に基づき、適正に実施されており、期待された成果が得られました。

## 7 評価検証委員会の意見

- ・ 初年度は、周知期間の関係から市町村へ事業内容が十分に浸透しなかったことから出足は鈍かったが、住民に身近な里山・平地林の整備が進められ、安心・安全な生活環境の整備に寄与できた点は評価できる一方、地元との調整が難航した例もあり、今後は提案する際の地域の合意形成の状況把握を行うことが必要だと思われる。
- ・ なお、県民ニーズと制度設計時における想定にズレが生じている場合もあり、十分な検討が必要とされる。

## 1 概要

### 普及啓発

ぐんま緑の県民税への理解を深めるため、税のしくみ、森林の役割や大切さの普及啓発活動を実施します。

### 評価検証

事業の内容検討・実績評価・効果検証などを行う「ぐんま緑の県民基金評価検証委員会」を運営します。  
事業の客観的な効果検証を行うために必要な県の林業試験場による調査・分析を実施します。

### ぐんま緑の県民税導入経費

市町村において、納税通知書にチラシを同封することに伴い増加する郵便料金・封入費用の実費負担相当額及び賦課徴収に係る事務手続の増加に対する経費相当額を負担します。

## 2 実施状況

【平成26年度の実績】

37,308千円

### 普及啓発

【平成26年度の実績】

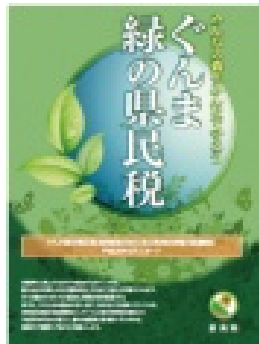
2,659千円

- ・ 納税通知書に同封するチラシの作成
- ・ ポスター・リーフレットの作成
- ・ ぐんまちゃんのイラストを活用したロゴの作成
- ・ 広報媒体を利用した普及啓発
- ・ 出前講座の実施
- ・ バスツアー（「歩いて知ろう！ぐんまの森林ツアー」）の実施

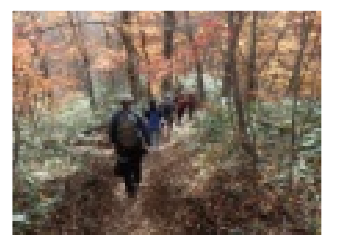


ロゴマーク

リーフレットの作成



出前講座・市町村説明会



バスツアー



## 評価検証（評価検証委員会の運営）

【平成26年度の実績】

408千円

- ・ 評価検証委員の選定(10名)・・・ 資料集 - 評価検証(評価検証委員会)を参照
- ・ 評価検証委員会の開催(3回)
  - 1回目:平成26年 6月23日 …… 県庁29階 第一特別室 10:00～12:00
  - 2回目:平成26年11月10日 …… 県庁 7階 審議会室 13:30～15:30
  - 3回目:平成27年 3月17日 …… 県庁29階 第一特別室 9:30～12:00

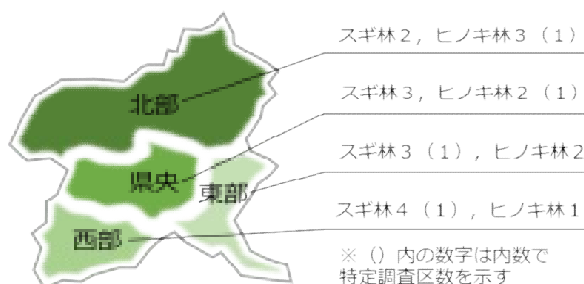


## 評価検証（調査分析）

【平成26年度の実績】

663千円

- ・ 水源地域等の森林整備事業地を対象に間伐の実施による事業効果の判定
- ・ 平成26年度は、調査対象地における間伐前の植生調査等を実施(県内20カ所を調査)



調査地の内訳

調査項目	通常区	特定調査区
毎木調査		
照度		
植被率		
植生乾燥重		
土壌断面		
植生調査		

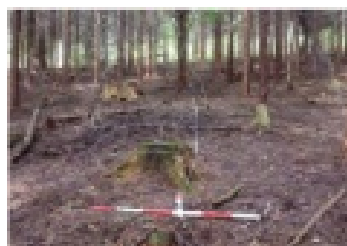


林内

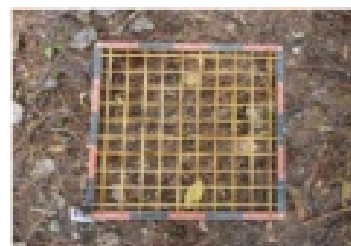


対照地

相対照度の測定の様子



植生調査



植被率調査

## ぐんま緑の県民税導入経費

【平成26年度の実績】

33,578千円

- ・ 県内35市町村にぐんま緑の県民税の導入に係る経費を補助
- ・ 納税通知書にぐんま緑の県民税に係るチラシを同封することに伴い増加する郵便料金・封入費用の実費相当額
- ・ ぐんま緑の県民税賦課徴収に係る事務手続の増加に対する経費相当額

## 3 成果

### 普及啓発

- ・ ぐんま緑の県民基金を広く普及啓発するため、ポスターやリーフレットの作成、各種メディア媒体を活用した広報活動を実施し、ぐんま緑の県民税の趣旨や事業内容などの理解の促進を図りました。

### 評価検証（評価検証委員会の運営）

- ・ 平成26年度は3回の評価検証委員会を開催し、市町村提案型事業における117事業の採択や森林・竹林の全伐支援などの新たな事業メニューの承認を行い、議事の内容や審議結果を公表しました。

### 評価検証（調査分析）

- ・ 20カ所の水源地域等の森林整備事業地を対象とし、間伐を実施する前の森林の状況を調査し、調査分析に必要な基礎情報の収集を実施しました。

### ぐんま緑の県民税導入経費

- ・ 県内35市町村全てに対して、ぐんま緑の県民税の導入に係る必要経費を支援し、新税導入に伴う事務手続きなどが効率的に実施されました。

## 4 課題・方向性

### 普及啓発

- ・ 県民が事業の成果やその効果について理解を深めるために、引き続き、広報誌や各種メディア媒体を活用し効果的な広報活動に努めます。

### 評価検証（評価検証委員会の運営）

- ・ 事業の検証や評価、助言を通して、明らかになった課題の解決に努めます。

### 評価検証（調査分析）

- ・ 間伐実施後の調査地のデータを確実に収集し、適切な調査分析を実施します。

## 5 実施状況の評価（評価者：県）

- ・ 県民に対する普及啓発については、今後も重点的に実施する必要があるが、平成26年度の制度運営に関する取組内容は適正に実施されており、概ね期待された成果が得られました。

## 6 評価検証委員会の意見

- ・ 初年度は、普及啓発に力が注がれ、その結果、市町村・県民への浸透は一定程度進んできたものと捉えられる。ぐんま広報やホームページに、本事業の内容や成果について、わかりやすく掲載して、さらなる県民の理解を得ることも必要だと考えられる。

# ぐんま緑の県民税評価検証委員名簿

(五十音順 敬称略)

氏名	職業・役職等	参考	備考
内山 はるの	森林所有者	森林・林業関係者	
金井田 好勇	館林市副市長	平地林代表市町村	
金子 裕昭	連合群馬事務局長	納税者(労働団体)	
鬼頭 春二	みなかみ町副町長	山地代表市町村 (H27.2.19 ~)	
清野 紀美子	群馬県生活協同組合連合会 女性協議会会長	納税者(消費者団体) (~ H26.7.22)	
高橋 淳子	桐生大学短期大学部 生活科学科教授	学識経験者 (環境教育)	
田村 辰夫	森林所有者	森林・林業関係者	
西岡 喬	太田商工会議所副会頭	納税者(経済団体)	
西野 寿章	高崎経済大学地域政策学部 観光政策学科教授	学識経験者 (森林環境保全)	委員長
松本 勉枝	群馬県生活協同組合連合会 女性協議会会長	納税者(消費者団体) (H26.7.22 ~)	
萩原 重夫	片品村副村長	山地代表市町村 (~ H27.2.19)	
宮地 由高	群馬NPO協議会相談役	学識経験者 (NPO・ボランティア活動)	委員長代理

(任期 : 平成25年7月30日 ~ 平成27年3月31日)



## ぐんま緑の県民基金事業 平成26年度 実施報告書

この実施報告書に関するお問い合わせ先

群馬県環境森林部 林政課 林政推進係  
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1  
:027-226-3278 Fax:027-223-0154  
E-mail :rinseika@pref.gunma.lg.jp

ぐんま緑の県民税ホームページ  
<http://www.pref.gunma.jp.04/e3000101.html>